



第111号  
北海道ポーランド文化協会 会誌「ポーレ」  
2024.1.5



午後のポエジアに参加して

林 祥史



街中の樹々がにわかに色づき始める 10月15日、豊平館で〈午後のポエジア〉が開催されました。この日の札幌は日中22度まで気温が上がり、開場の17時ごろでも中島公園ではダウンコートを羽織る人は少ない様子でした。会場の豊平館には初めて入場したのですが、その錦のカーテンから窓外をのぞくとちょうど落陽の頃合いで、雲ひとつない空と街のビルは紫紺に染められて、なんて愛らしい午後なんだろう！と開始前からすっかりワクワクしていました。



今年で12回目の〈午後のポエジア〉に私は初めて参加しました。まず北浦由花里さんによるショパンの演奏がありました。

私はフィンランドの大学院で研究していた頃ポーランド人の親友に会うため何度もポーランドを訪れましたが、毎回ショパンの偉大さを感じたものです。例えば空港の名にも冠していますし(空港にピアノが置いてありました)、ワルシャワのショパン博物館はいつ行っても満員で結局一度も入れませんでした。

その後、一部・二部あわせて9名による朗読が披露されました。お一人お一人大変素敵でしたが、中でもポーランドを代表する詩人シンボルスカさんの「終わり始まり」のポーランド語による朗読(ジェブカさん)が印象的でした。



ポーランド語は大学生の頃に初めて勉強したのですが、今なおあの独特な響きはマネできません。当たり前ですがポーランドに行く度に皆さんが話すポーランド語が魔法のようにお上手で、まるで空を飛ぶ魔女を見るかのように憧憬を抱いてしまいます。

私もソマイア・ラミシュさん作の「世界のどの地域も夜」を英語で朗読させてもらいました！当初ポ

ーランド語で朗読するものとはばかり思っておりましたが、英語でしたので正直ホッとしました(現在、私は高校で英語教員をしております)。



最後にポーランドの方からのパフォーマンスがあり、クイズをラファウ・ジェブカさん、そして映像でヴァイスワヴァ・シンボルスカ作「誰かが詩を愛する」のかわいらしい朗読を佐藤レミアさんが行いました。

私は学生時代のポーランドでの日々が今でもとても懐かしく、温かい思い出が溢れてきます。それゆえ遠い日本に戻って来た今でもまだつながりを持つことが幸せです。老若男女、様々な方たちが〈ポーランド〉と〈北海道〉という共通項をもとに集うこの機会に参加でき、10年ぶりに去年札幌に戻った自分としてもとても心温まる時間でした。

(はやし・よしひと、写真 尾形芳秀)

